

# 第1章 札幌市の観光への取り組み

## 1 平成23年度観光コンベンション部の事業概要

各事業の詳細については、【 】内に記載している各担当係までお問い合わせください。

<お問い合わせ先>

札幌市観光文化局観光コンベンション部観光企画課

電話 011-211-2376

### ○観光客の受け入れ環境整備事業

#### (1) 観光案内所の運営管理【観光誘致・受入担当】

来札客に各種観光情報等を提供するため、市内に観光案内所を設置しています。常設の案内所のほか、観光シーズンやイベントに合わせて設置する案内所があります。

また、外国人来札客に対しての観光情報提供場所として、国際観光振興機構（日本政府観光局：JNTO）の指定による「ビジット・ジャパン案内所（V案内所）」があります。

#### 〔観光コンベンション部案内所一覧〕

名称	概要
北海道さっぽろ観光案内所 (V案内所)	所在地：中央区北6西4 JR札幌駅1階西側コンコース 定休日：年中無休 営業時間：8:30～20:00 電話番号：011-213-5088
カッコウの窓口 (V案内所)	所在地：中央区北1西2 北海道経済センタービル4階 札幌観光協会内 定休日：土日祝、年末年始 営業時間：8:45～17:15 電話番号：011-211-3341
大通公園観光案内所	所在地：中央区大通西3丁目 開設期間：春～秋季のみ 平成23年は4/28～10/31まで開設 定休日：開設期間中は無休 営業時間：9:30～17:30（4～6月、9・10月） 9:00～18:00（7・8月） 電話番号：なし
定山溪観光案内所	所在地：南区定山溪温泉東3丁目 定休日：年末年始 営業時間：9:00～17:00 電話番号：011-598-2012
札幌国際プラザ (V案内所)	所在地：中央区北1西3札幌MNビル3階 定休日：日祝、年末年始 営業時間：9:00～17:30 電話番号：011-211-3678
雪まつり観光案内所	所在地：中央区大通西6・9丁目 開設期間：雪まつり会期中のみ 平成24年は2/6～2/12まで開設予定 定休日：雪まつり会期中無休 営業時間：9:00～22:00 電話番号：なし

## (2) 観光マップ制作【観光誘致・受入担当】

来札客の円滑な周遊をサポートするためのツールとして、中心部及び広域マップに主な観光施設を掲載した「さっぽろ観光マップ」を発行しています。日本語のほか、英語、中国語（簡体字・繁体字）及びハングルの5言語を制作し、市内各案内所等で配布しています。

## (3) 観光案内板の管理【庶務係】

来札客の利便性を図るために、195基の観光案内板を設置しています。表示言語は、日本語・英語・中国語（簡体字）・ハングルの4言語に加え、中国語（繁体字）の追記を順次行っており、外国人の来客にも対応しています。また、ピクトグラム（絵文字表記）などユニバーサルデザインを採用して利便性に配慮しています。

## (4) 都心部観光バス待機場の設置【観光誘致・受入担当】

観光バスで訪れた観光客が街なかを見学している間、バスが路上駐車をしなくても済むように、札幌市と北海道バス協会が共同で観光バス専用の待機場を設置し、北海道バス協会が管理運営をしています。

観光バス待機場所在地：中央区北1条西9丁目〔平成22年度利用台数12,475台〕

## (5) 札幌まちめぐりパス事業への参画【観光誘致・受入担当】

公共交通の利用促進と、札幌を訪れる観光客の利便性、観光施設と連携した札幌の魅力アップを目的として行っている「札幌まちめぐりパス」の事業（平成18年度～平成20年度は実証実験）に参加しています。

日本語版パンフレットについては、平成20年度より、フリーペーパー要素を加味することで制作費・印刷費を広告収入で賄うこととし、事業の枠組みを確立しました。

## ○ホスピタリティ推進事業【観光誘致・受入担当】

### (1) 観光ボランティアの運営

市民による観光ボランティアが、大通公園観光案内所や北海道さっぽろ観光案内所、雪まつり会場の案内所で、パンフレットの配布や観光スポットの紹介、写真撮影などの観光案内を行っています。地元住民ならではの意見が聞けるということで、観光客から好評を得ています。

登録数は149名（男51名・女98名）、平均年齢は63.7歳であり、活動は交代制となっています（平成23年9月現在）。

### (2) 札幌魅力再発見研修

観光客への案内スキルの向上やおもてなし意識の醸成を図り、札幌観光の満足度向上を目的に、札幌市内のホテルのフロントやコンシェルジュ、観光事業者などを対象として、市内及びさっぽろ広域観光圏域内の観光スポットの視察研修・体験研修を実施しています。

### (3) 市民と協働による観光リーフレット制作

地元市民が好んで行く札幌のおすすめスポット情報を札幌観光に役立ててもらうことを目的に、テーマごとに市民おすすめ観光モデルコースの作成を行っています。市民と協働で事業を実施することで、観光ガイドブックの定番情報とは異なる地元市民ならではの情報を提供しています。リーフレットの制作のほか、観光情報サイト「ようこそさっぽろ」にも掲載しています。

ようこそさっぽろ(観光モデルコース)

<http://www.welcome.city.sapporo.jp/sansaku/>

#### (4) 札幌おもてなし委員会

まち全体のおもてなし向上を目指すため、観光関連団体(経済団体、観光関連事業者、都心部商店街、市民ボランティア、行政など)と連携・協力して立ち上げた、官民合同の組織である「札幌おもてなし委員会」の事務局をしています。おもてなしのための人材育成、大規模コンベンション等での統一感のあるおもてなし、観光関連事業者の情報共有・ネットワーク化を行い、おもてなしのレベルアップを図っていきます。

### ○観光情報の発信

#### (1) ホームページの運営管理

##### ア) 観光情報サイト「ようこそさっぽろ」の運営管理【企画調整担当】

札幌市の観光情報サイトとして「ようこそさっぽろ」を公開しています。

このサイトは、交通機関や観光施設等の基本情報のほか、イベントなど季節限定の情報を紹介。また、「その道の達人」が書く記事を月に数回更新するなど、定番から旬のものまでバラエティに富んだ観光情報を提供しています。日本語のほか、英語・中国語(繁体字・簡体字)・ハングル版があります。

ようこそさっぽろ <http://www.welcome.city.sapporo.jp>

##### イ) リアルタイム情報発信システム運営【観光誘致・受入担当】

市内で行われる様々な観光・文化事業の情報を集約し、季節情報(桜開花情報、紅葉情報など)や観光施設の運休情報(ロープウェイ、観光幌馬車など)などのリアルタイム情報とあわせて、市民へわかりやすく提供する「観光文化情報ステーション」を運営しています(観光文化局文化部に予算を委託し運営)。

なお、観光文化情報ステーションは以下のホームページでも情報発信を行っています。

観光文化情報ステーション

所在地：地下鉄南北線「大通駅」地下コンコース北改札口横

定休日：年末年始(12/29～1/3)

営業時間：10：00～20：00

【URL】<http://www.sapporo-info.com/index.php>

【携帯電話用URL】<http://www.sapporo-info.com/m/>

QRコード⇒



#### (2) 観光メールマガジンの配信【企画調整担当】

札幌観光の旬の魅力を広く発信するため、首都圏をはじめとする旅行会社の方々や、観光関連会社の方々、市内外の一般の方々などを対象に観光メールマガジンを配信しています。このメールマガジンでは、魅力が読者により伝わるよう観光コンベンション部職員が実際に体験取材を行い記事にしています。

メールマガジンの配信は、下記のホームページから申し込むことができます。

札幌の観光行政(メールマガジン配信申込・バックナンバー紹介)

[http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/mail\\_magazine/mail\\_magazine.html](http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/mail_magazine/mail_magazine.html)

#### (3) 観光情報共有メーリングリストの管理運営【企画調整担当】

季節情報(桜開花情報、紅葉情報など)や観光施設運休情報(ロープウェイ、観光幌馬車など)、各種イベント情報等の観光関連情報を、観光案内所や市内ホテル関係者等で共有するためのメーリングリスト「観光情報ネット」を運営しています。

#### (4) 観光写真ライブラリー【企画調整担当】

企業等が札幌の観光ガイドブックやパンフレット制作を行う際に必要となる市内の

観光スポット等の写真を保有しており、ホームページで無料ダウンロードサービスを行っています。〔平成 23 年 8 月現在 約 1,900 枚保有〕

札幌の観光行政(観光写真ライブラリー)

<http://www.welcome.city.sapporo.jp/photolibrary/>

(5) Twitter (ツイッター)【企画調整担当】

Twitter において「札幌市観光コンベンション部」の名前でアカウントを設けており、イベントの告知をはじめとした観光情報の発信を行っています。〔平成 23 年 9 月現在のフォロワー数 約 5,000〕

札幌市観光コンベンション部@Sapporo\_tourism(Twitter アカウント)

[http://twitter.com/Sapporo\\_tourism](http://twitter.com/Sapporo_tourism)

(6) Facebook (フェイスブック)【企画調整担当】

Facebook において、日本語版と英語版のアカウントを設けており、写真や動画、観光情報の発信を行っています。

ようこそさっぽろ～札幌市の観光案内(日本語版)

<http://www.facebook.com/sapporocity>

Welcome to Sapporo(英語版)

<http://www.facebook.com/SapporoNow>

○修学旅行誘致に関する企画【観光振興担当】

首都圏などから中学・高校生の教育旅行を誘致するために、道央圏の関係団体(行政・観光協会等)で組織する「道央圏教育旅行推進会議」に参加し、学校関係者・旅行代理店を対象に説明会の開催や教育旅行誘致パンフレットの制作を行っています。

○藻岩山魅力アップ事業【企画調整担当】(4 トピックス(p16)参照)

ロープウェイ、展望台などといった藻岩山における各施設は、建設から 40 年近くが経過し老朽化が顕著となっていたため、「藻岩山魅力アップ構想」に基づき再整備を進めています。藻岩山は 190 万都市札幌の中心市街地に隣接しながら、天然記念物にも指定されているほどの豊かな自然を有しており、この恵まれた資源を市民や観光客、子どもから高齢者に至るまで誰もが体験できるよう再整備を行うもので、環境の保全とバリアフリーを 2 つの大きなテーマとしています。

平成 22 年 4 月より、ロープウェイ、展望台、観光道路は工事のため閉鎖していますが(登山道は利用可能です)、平成 23 年 12 月にリニューアルオープンする予定です。(観光道路は、冬期間はスキー場として利用されるため、平成 24 年 4 月にオープンする予定です。)

また、施設整備だけではなく、「藻岩山の日」など、多くの市民・観光客に藻岩山に親しんでいただけるような各種イベントの充実を図っていきます。

○国内外へ向けた観光プロモーション事業(4 トピックス(p14)参照)

(1) 国内プロモーション事業【観光振興担当】

これまで本市が行ってきた国内観光客の誘客に向けた取り組みは、新たな旅行商品の造成を目的とした観光セミナー・商談会の開催と、イベントや雑誌を介した一般消費者への PR が中心でした。

現在の国内旅行については、個人手配旅行やフリー型パック旅行の需要が多くなっていることから、来札観光客の獲得には、一般消費者の来札意欲を喚起し、旅行先として選ばれることが重要と考えています。

そこで、今後事業を展開していくにあたっては、プロモーションの対象と時期をしっ

かりと定め、その時期に訴求力ある観光素材同士を組み合わせることで総合的な魅力を高め、関連事業者とも連携しながらさまざまな媒体を活用した情報発信を行い、より一般消費者の関心を引くプロモーションを展開し、来札意欲を喚起し、誘客へと繋げていく取り組みを行っていきます。

**ア) 夏の観光PR**

対象地域：首都圏

主な観光素材：さっぽろ大通ビアガーデン、涼しい札幌の夏

**イ) 秋の観光PR**

対象地域：関西圏

主な観光素材：さっぽろオータムフェスト、食

**ウ) 冬の観光PR**

対象地域：首都圏

主な観光素材：さっぽろ雪まつり、藻岩山

**(2) 国際プロモーション事業【観光誘致・受入担当】**

平成22年の海外からわが国への来客数は、新型インフルエンザの影響の緩和、中国人個人観光査証の発給要件の緩和などにより、大幅な増加となりましたが、東日本大震災以降については、原発事故への不安などを背景に大幅な落ち込みとなっています。

札幌市では、海外からの観光客の回復を図るため、札幌の安全性や、街の様子について、インターネットを活用した発信を行うとともに、各国のメディアを招請して実際に見て確認してもらうなど、正確な情報発信に努めています。また、各種のPR事業を展開することにより、旅行会社に対して旅行商品の造成を促したり、一般市民の旅行意欲を喚起します。

**ア) 現地プロモーション事業**

現地の旅行会社を対象に、観光PRや商談会を行うことで、札幌の魅力を伝え、旅行商品の造成を促します。また現地のイベントや物産展とタイアップし、一般市民に向けて直接PRを行うことで、旅行意欲を喚起します。

23年度実施予定地：大田広域市（韓国）、台北市（台湾）、ユジノサハリンスク・ハバロフスク（ロシア）

**イ) 国際旅行博覧会出展事業**

旅行関係者や、旅行に関心の高い一般市民が集まる場で、観光PRや情報提供を行うことで誘客につなげると同時に、来場者からの聞き取りによる市場調査を行います。

23年度出展先：北京旅遊博、瀋陽国際観光祭（中国）、MATTA Fair（マレーシア）、トラベルマート2011（横浜）

**ウ) 情報発信事業**

TV局、旅行雑誌、旅行会社等の関係者を招請して札幌の安全性や観光の魅力を実際に体験してもらい、自国に伝えてもらうことや、フェイスブックやユーチューブ、ユーストリームなどインターネットを活用して、一般市民に直接情報発信を行い、旅行意欲を喚起します。

23年度発信先：中国、韓国、香港、タイ、シンガポール、ロシア、インド

**○コンベンション誘致・支援事業【観光誘致・受入担当】（4 トピックス(p15)参照）**

近年、コンベンション（国際会議）のみならずイベントや企業の報奨旅行などを包括したMICE（マイス＝Meeting、Incentive travel、Convention、Event/Exhibition）という概念が誕生し、国は平成22年を「Japan MICE Year」と銘打ち、MICE推進に取り組ん

できました。札幌市では、都市間競争に打ち勝つため、平成 22 年 11 月に公益財団法人札幌国際プラザ コンベンションビューロー\*とともに策定した「札幌 MICE 総合戦略」に基づき、産業界や大学、市民との連携や海外とのネットワークを重要な要素として、MICE によるさらなる集客を目指していきます。

**(1) コンベンション誘致事業**

会議の運営費用に係る助成金制度の整備や運用、国際コンベンション見本市への出展等、コンベンション誘致事業を行うほか、割引地下鉄 1 日乗車券「A カード」の制作等の会議開催支援を行い、会議参加者のアフターコンベンション（会議後の観光等）を促進しています。

**(2) 関係団体との連絡調整**

札幌市におけるコンベンション誘致の中心組織である公益財団法人札幌国際プラザ コンベンションビューローに対して補助金を交付するとともに、国際コンベンション見本市への出展、会議開催の鍵となるキーパーソンに対する札幌招へい状の作成など、誘致事業についても連携しながら、実施しています。

また、大規模・国際的なコンベンション（例：国際顕微鏡学会、その他政府系国際会議など）の誘致については、関係者（道、経済団体、企業等）との意見交換や調整を図るなど、戦略的な誘致に向けた取り組みを行っています。

公益財団法人札幌国際プラザコンベンションビューロー：コンベンションを誘致するため、誘致段階（誘致プレゼンテーション資料の提供、招へい状の送付など）、開催段階（コンベンション運営支援、ボランティアの派遣）等の事業を主な活動とする非営利の推進機関です。

**○ P R ツールの制作、配布・貸出【観光振興担当】**

札幌の観光の魅力を視覚的にアピールしていくために、広報宣伝物を制作し、配布または貸出を行っています。

**(1) 観光 P R 用 D V D ・映像ライブラリー素材**

本市では、観光 P R 用の D V D を制作しており、様々な P R の機会をとらえて放映や配布を行っています。また、制作時に撮影した映像の一部をライブラリーとし、D V D とともに広く貸し出しています。

貸出物の名称	言語	メディア	備考
「CINEMATIC CITY SAPPORO」	日本語、英語、中国語（簡体字、繁体字）、韓国語	DVD	初版：平成 23 年度
「CINEMATIC CITY SAPPORO」 映像ライブラリー素材		DVD[MPEG-2]	解像度 720×480
		テープ[HD-CAM]	解像度 1440×1080

インターネット上でも閲覧できます。

ようこそさっぽろ内の「CINEMATIC CITY SAPPORO」のページ

<http://www.welcome.city.sapporo.jp/movies>

**(2) 観光 P R リーフレット・ポスター**

本市では、さまざまな機会をとらえた幅広いプロモーション活動を行うため、観光 P R リーフレットとポスターを制作しています。制作したリーフレットやポスターは、全国各地で行われる物産展や各種イベント等で配布、掲出していきます。

**○ 来札観光客の動向調査・分析、結果についての情報提供【企画調整担当】**

**(1) 来札観光客数、外国人宿泊者数の調査**

札幌市への来札観光客の入り込み数や宿泊施設の利用状況などの調査を行い、本書

「札幌の観光」やインターネットで公開しています。

札幌の観光行政(観光統計データ)

<http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/statistics/statistics.html>

## (2) 来札観光客動態調査

来札観光客の動態を明らかにし、今後の観光行政に活用することを目的に、以下の調査を実施しています。

なお、過去の調査結果はホームページで公開しています。

札幌の観光行政(計画・調査レポート)

<http://www.city.sapporo.jp/keizai/kanko/program/program.html>

### ア) 来札観光客満足度調査

道外からの観光客を対象に、来札観光の満足度、観光消費額、宿泊日数、再訪意向などに関するアンケート調査を実施しています。

[平成 22 年度 来札観光客の札幌観光に対する総合満足度：94.7%]

### イ) 外国人観光客動態調査

香港、台湾、中国、韓国など外国人観光客を対象に、市内での観光行動や満足度などに関するアンケート調査を実施しています。

[平成 22 年度 外国人観光客の札幌観光に対する総合満足度：95.4%]

## (3) 観光産業経済効果調査

所得形成効果や雇用創出効果など、観光がもたらす経済面での影響を把握・分析して、今後の観光施策をより効果的に実施していくため、札幌市内における観光消費額とこれに伴う経済波及効果を 5 年毎に調査・推計しています。

[平成 21 年 7 月～22 年 6 月 総観光消費額：3,689 億円、生産波及効果：4,274 億円  
所得形成効果：2,459 億円、雇用効果：35,076 人]

## ○(仮称)札幌市観光振興プランの策定【企画調整担当】

札幌市では、観光を通じた豊かなまちづくりを進めるため、「(仮称)札幌市観光振興プラン」を策定します。

平成 23 年度中の策定を目指しており、5 月より学識者、業界団体、市民公募委員などで構成する「札幌市観光振興プラン検討会議」を設置して、今後の方向性や取り組むべき施策などについて、具体的な検討を進めています。

札幌は、今や世界的なブランドとなっている北海道の食材が集中しているほか、便利な都会でありながらも市内・近隣には豊かな自然に恵まれており、四季に応じた美しい景色や、雪まつりのような独自色溢れるイベントを楽しむことができます。これらはほんの一例であり、札幌の魅力は他に例を見ないほど多岐に渡っていますが、札幌市民が楽しんでいる魅力の全てを観光で訪れた方が楽しんでいるわけではありません。今後は、札幌がもつ多種多様な魅力を最大限に活かすことで、札幌ならではの観光スタイル「Sapporo Tourism」を確立し、何度でも行きたい「まち」となることで、集客交流をより一層促進していきます。

さらには、魅力を活かした集客交流により、まちに活力がもたらされ、市内消費の拡大が期待できます。その結果、魅力豊かなまちづくりがさらに進んでいく、という発展的な循環構造の確立を目指していきます。

## ○定山溪観光客誘致関連【観光振興担当】

平成 16 年度に策定された「定山溪温泉活性化ビジョンアクションプログラム」に関連して実施される各種ウォーキング、散策、定山溪エリアの食や文化等を発信する事業など、

定山溪温泉地域の魅力向上、来客誘致を促進する事業に対し支援を行っています。

## ○新たな観光魅力づくり、観光資源の開発【観光振興担当】

観光客の札幌市での滞在をより充実させることを目的に、各関係団体とも連携のうえ、札幌の新たな観光魅力づくり、観光資源の開発を行っています。

### (1) さっぽろスイーツ

平成 17 年度に設立された「スイーツ王国さっぽろ推進協議会」を中心に、北海道産の優れた機能性食材を生かしたスイーツの開発や、国内外への P R 活動など様々な事業を展開しています。

### (2) 札幌広域圏組合

札幌広域圏組合は、広域的な地域振興を図ることを目的に、札幌近郊 8 市町村から構成されている特別地方公共団体です。圏域交流や圏域振興については近郊市町村と密度の濃い連携のもと、互いに無いものを補いながら、「点」としてではなく「面」として札幌圏を P R し、札幌圏への誘客を目指しています。また、同じ圏域を有する観光圏整備事業とも連携し、共通の取り組みとして協働で進めています。

主な事業としては、主要旅行会社担当者とともに札幌近郊の観光資源を活用し旅行商品化を促進する「圏域観光リプランニング事業」の実施や、積極的な首都圏での P R 活動、圏域の景色や体験、食など様々な観光資源を紹介したブログサイトの開設などの事業があります。

### (3) 中核都市連携による観光振興

北海道内の中核都市(函館市・旭川市・釧路市・帯広市・北見市・札幌市)による観光連携協議会を平成 22 年 3 月に立ち上げました。今年度は、域内交流を目的とした「道内中核都市周遊促進事業」の実施をはじめ、北海道さっぽろ「食と観光」情報館イベントスペースにおいてポスター及びパンフレットの掲出やボランティア制度の情報共有などを行う予定です。

### (4) 観光圏整備事業

札幌市中心部などの都市としての魅力と周辺市町村に広がる大自然を観光資源とした札幌圏での 2 泊 3 日以上滞在型観光を促進するため、周辺市町村や民間事業者と連携して「さっぽろ広域観光圏」を整備しました。「さっぽろ広域観光圏」では、少ない移動時間で都会と自然の両方を満喫できることをメリットとして各種事業を展開しています。平成 23 年度は観光資源を結ぶ連泊型モデルツアーなどを実施するほか、周遊促進マップ制作など、圏域の魅力アップを図っていきます。

**観光圏**：観光圏とは、観光庁が観光圏整備法に基づいて実施している事業です。観光圏に認定されることによって、宿泊、観光資源、交通移動、案内・情報提供などのレベルアップを図る地域の取り組みに対する事業費補助、ホテル・旅館による旅行業者代理業の特例措置などのメリットがあります。

### (5) 札幌シティ・リゾートウェディング

挙式を兼ねた旅行の誘致も視野に入れながら、香港からのフォトウェディング（結婚記念写真旅行）の誘客のための写真集等の作成や P R を行います。

## ○各種まつりの企画実施【事業担当】(第 4 章 1 札幌でのイベント開催状況(p41~48)参照)

### (1) さっぽろライラックまつり

ライラックの開花時期に大通公園で開催。昭和 34 年に第 1 回が開かれ平成 23 年で 53 回を迎えました。

## (2) さっぽろ夏まつり

昭和 29 年に夏の観光名物の新規開拓を目指し誕生。平成 23 年で 58 回を迎えました。イベントの中心となっているのがさっぽろ大通ビアガーデンと北海盆踊りで、都市公園で 4 大ビールメーカーが一同にビアガーデンを開催するのは全国的にも珍しいものです。

## (3) さっぽろオータムフェスト

平成 20 年度から、札幌の新たな秋のイベントとして開催。平成 23 年で 4 回目の開催となります。「北海道・札幌の食」をメインテーマとして、道内各地の旬の食材、ご当地グルメやラーメン、道産のお酒などを提供します。

## (4) さっぽろ菊まつり

昭和 38 年に菊作り愛好者が増える中、小規模な同好会活動が一本化され、全市的なスケールのイベントとして誕生。平成 23 年で 49 回を迎え、札幌駅前通地下広場に会場を移しリニューアルします。

## (5) さっぽろ雪まつり

昭和 25 年に始まったこのまつりは、札幌を代表する世界的なイベントで、平成 24 年で 63 回を迎えます。約 250 基の雪氷像が 7 日間にわたり市民や観光客を楽しませます。

### ○各種まつりの連絡調整【事業担当】

#### (1) YOSAKOIソーラン祭り（第 4 章 1 札幌でのイベント開催状況(p42)参照）

平成 4 年に始まったこの祭りも平成 23 年で 20 回を迎え、約 200 万人の来場者が訪れる札幌の初夏を彩る一大イベントに成長しました。

#### (2) さっぽろホワイトイルミネーション（第 4 章 1 札幌でのイベント開催状況(p47)参照）

昭和 56 年に秋の観光シーズンとさっぽろ雪まつりをつなぐイベントとして誕生。平成 23 年で 31 回を迎えます。会場は大通公園、駅前通り及び南一条通りで、総数 50 万個もの電球が飾られ北の街の夜を幻想的に彩ります。

#### (3) ミュンヘンクリスマス市 in Sapporo

平成 14 年にミュンヘン市との姉妹提携 30 周年を記念し開催されました。会場は大通西 2 丁目で、ドイツのクリスマス市にちなんだ物販が行われ、札幌とミュンヘンの国際的な交流の場として市民に親しまれています。

### ○「札幌コンベンションセンター」の運営管理【庶務係】

国際会議や各種学会等の大規模な会議を、需要に応じて柔軟に対応できる大型コンベンション施設を設置しています。

#### 〔札幌コンベンションセンター〕

所在地	白石区東札幌 6 条 1 丁目
電話番号	0 1 1 - 8 1 7 - 1 0 1 0
開設年月	平成 15 年 6 月
構造／延床面積	鉄骨鉄筋コンクリート造、地下 1 階地上 3 階／2 0 , 3 0 9 . 9 0 m <sup>2</sup>
開館時間	午前 9 時から午後 10 時まで（休館日 12 月 29 日から翌年 1 月 3 日）
管理運営	SORA-SCC 共同事業体（指定管理者）
主要施設	大ホール（シアター形式 2,500 人収容）、特別会議室（シアター形式 700 人収容） 中ホール（シアター形式 600 人収容）、小ホール（固定席 193 人収容） 会議室（15 室）、野外展示場、駐車場（475 台収容）
敷地面積	4 1 , 0 1 8 . 5 1 m <sup>2</sup>
(URL)	<a href="http://www.sora-scc.jp/">http://www.sora-scc.jp/</a>

## ○札幌国際ユースホステルの運営管理【庶務係】

来札観光客に低額な料金で、安全・快適な宿泊を提供する施設として札幌国際ユースホステルを設置しています。

### 〔札幌国際ユースホステル〕

所在地 豊平区豊平6条6丁目5番35号  
電話番号 011-825-3120  
開設年月 平成12年4月  
構造／延床面積 鉄筋コンクリート造 地下1階付4階建／1,967.64㎡  
定員／利用期間 120人／通年  
管理運営 一般財団法人北海道ユースホステル協会（指定管理者）  
宿泊料金等 宿泊3,800円（中学生以下3,300円、4歳未満無料）（冷暖房、シーツ料、税込）食事（朝食630円）  
敷地面積 918.93㎡  
(URL) <http://www.youthhostel.or.jp/kokusai/>

## 2 平成 23 年度観光文化局観光コンベンション部の機構・職員数

局長	部長	課長	係長	係員
観光文化局長	観光コンベンション部長	観光企画課長	庶務係長	3名
			企画調整担当係長	3名
		観光PR・イベント担当課長	観光振興担当係長	3名
			事業担当係長	2名
			シティPR担当係長 (総務局東京事務所シティセールス担当係長兼務)	
	MICE推進担当課長	観光誘致・受入担当係長	4名	
	定山溪地区担当課長 (南区定山溪出張所長兼務)	定山溪地区担当係長 (南区定山溪出張所次長兼務)		
部長職 (札幌振興公社派遣)				
	課長職 (札幌観光協会派遣)			
1名	2名	5名	7名	15名
合計職員数 30名				

3 平成 23 年度予算の概要（第 2 回定例市議会補正予算までを含めたもの）

《平成 23 年度観光コンベンション部 予算の概要》

予算総額 1,195,790 千円（対前年度当初予算比 73.8%の増）

観光振興費

・観光案内所運営費	54,448 千円	観光案内所の運営管理
・観光施設運営管理費	32,613 千円	コンベンションセンター・定山溪観光施設等の維持管理
・観光情報ポータルサイト運営費	28,176 千円	観光情報サイト「ようこそさっぽろ」運営管理
・観光企画宣伝費	37,485 千円	事務経費

観光行事等助成費

・観光行事等助成費	152,420 千円	各種まつり・札幌観光協会等への補助
-----------	------------	-------------------

集客交流促進費

・国内観光振興事業費	15,800 千円	首都圏等でのターゲット（一般客・旅行会社）別の観光 PR
・国際観光促進事業費	13,500 千円	東アジア圏や新興市場に対する観光 PR 等
・おもてなし推進事業費	34,180 千円	おもてなしタクシー事業・バリアフリー観光事業等
・広域連携による観光振興事業費	13,210 千円	着地型旅行商品の造成支援事業等
・観光活性化基礎調査費	6,600 千円	観光客満足度調査等
・観光マップ制作費	7,050 千円	観光マップの制作費
・観光 PR 用映像制作費	5,000 千円	映像撮影及び DVD 制作費
・シティ・リゾートウェディング推進事業費	6,000 千円	札幌シティ・リゾートウェディング連絡会への補助金等
・観光振興プラン策定費	5,900 千円	観光振興プランの策定費
・外国人受入体制強化事業費	52,320 千円	異文化理解促進事業・実証実験事業等
・緊急国内観光プロモーション事業費	17,900 千円	道内外を対象としたプロモーション活動
・雪まつり緊急プロモーション事業費	7,600 千円	東京デイズニースリゾートでの PR 活動等
・緊急海外プロモーション事業費	3,000 千円	映像制作及びプロモーション活動

## 都市魅力向上費

・雪まつり大通会場雪像制作費	52,470 千円	大通会場大雪像制作等
・雪まつり魅力アップ事業費	104,400 千円	つどーむ会場管理運営・イベントの充実
・大通公園スケーティングスクエア事業費	12,500 千円	スケートリンク設置・運営負担金
・ホタルフェスト事業費	30,000 千円	ホタルフェスト運営負担金
・ライラックまつり魅力アップ事業費	2,500 千円	ライラック音楽祭管理運営
・藻岩山魅力アップ事業費	430,838 千円	藻岩山施設整備事業費等
・定山溪観光客誘致関連事業費	3,000 千円	来客誘致促進事業に対する補助金
・菊まつり魅力アップ事業費	1,400 千円	菊まつり魅力アップ補助金
・中国戦略ネットワーク事業費	2,410 千円	情報収集及び観光客誘致の推進

## コンベンション推進費

・コンベンションビューロー運営費補助金	42,410 千円	コンベンション誘致活動及び国際プラザへの補助
・コンベンション誘致促進補助金	10,000 千円	コンベンション誘致促進のための開催費補助
・MICE推進事業費	10,660 千円	MICE推進事業への補助等

## 4 トピックス

### ○東日本大震災の影響を踏まえた対策

平成23年3月11日に発生した東日本大震災の影響により本市の観光関連産業は大きな打撃を受けました。震災後の4月の市内宿泊施設延べ宿泊数は、対前年比19.3%の減になり、特に外国人客は92.5%という大幅な減となりました。

観光客数の早期回復を図るため、本市では旅行意欲喚起への取り組みを進めています。その際、来札観光客の半数以上を占める北海道民向けの取り組みを最優先に行いつつ、震災及び福島原発事故の風評被害により激減している海外観光客対策として、安全で元気な札幌の積極的発信を行っています。また、必要な事業費を5月の第2回臨時市議会及び6月の第2回定例市議会において議決しています。

国内向けには、ゴールデンウィーク後から夏休み前までの期間、道内の需要を喚起していくために「ようこそさっぽろキャンペーン」を実施しました。このキャンペーンは、市内の宿泊施設や円山動物園と連携してお得な宿泊プランを造成し、旬の観光情報とともに発信するものです。

道外向けには、夏以降の誘客を目的に、節電対策により避暑需要のある首都圏において、涼しい夏の札幌をPRするため、街頭ビジョンでCM放映を行ったほか、旅行会社や航空会社と連携して、さっぽろ大通ビアガーデンのPRチラシを作成し配布しました。また、関西圏では、まだ知名度の低い「さっぽろオータムフェスト」について、雑誌、街頭ビジョンを活用したPRを行っています。

今後の国内観光客誘致に向けては、東京ディズニーリゾートのイクスピアリでのさっぽろ雪まつりのPR、全国発売の雑誌誌面におけるPRや、安定的な来客数の足固めを行うために、改めて北海道民向けに秋から冬にかけてのPRを観光関連事業者と連携して実施していく予定です。

海外向けには、6月に市長による中国の杭州・瀋陽・大連でのトップセールスを行いました。また、札幌の現在の正確な状況を知ってもらうため、「札幌の今の様子」を伝える動画やフォトライブラリー等により、情報発信を行っています。これには、新しい情報ツールであるフェイスブックやユーチューブ、ユーストリームを活用した情報発信も含まれています。

さらに、韓国において、6月29日にKorea MICE EXPOに参加し、観光PRイベントを行い、平成22年度の来日観光客数で1位である台湾に対しては、緊急プロモーションとして8月に現地で旅行会社と意見交換会を行いました。

他にも、北海道運輸局が中国・韓国・台湾・香港・シンガポールからメディアを招請することから、北海道観光振興機構とも連携を図り協力しながらメディアを受け入れ、札幌の魅力と現在の札幌の様子を伝えてもらうための支援を行っています。

夏の観光シーズンの観光客数は、海外からの観光客はまだ厳しい状態が続いているものの、全体としては回復してきています。今後も観光客数回復のための取り組みを進めていきます。

### ○都心の魅力アップ（札幌駅前通地下歩行空間、創成川公園オープン）

地下鉄さっぽろ駅と大通駅を札幌駅前通の地下で結ぶ「札幌駅前通地下歩行空間」が平

成 23 年 3 月 12 日に開通しました。これにより、既存の地下街（アピア、オーロラタウン、ポールタウン）ともつながり、北は J R 札幌駅、南は地下鉄すすきの駅、東は地下鉄バスセンター前駅までの広大な地下ネットワークが誕生しました。

季節や天候に左右されず、お年寄りや車いすの方など誰もが安全・快適に移動できるようになり、さらに、札幌駅周辺地区と大通・すすきの地区が地下でつながることで、より気軽に都心全体のまちなめぐりを楽しむことができるようになりました。

また、中央部の幅 12m の歩行空間の両側は「札幌駅前通地下広場」となっており、大型ビジョンを設置した広場や、イスやテーブルを設けた休憩スペースもあります。様々なイベントや P R ・物販の場として使われたり、沿道ビルの地下の店舗と直接接続していたりと、単に通過するだけではない、人々が憩い楽しめる空間となっています。



この空間を活用して、「サッポロ・シティ・ジャズ」のライブが開催されたほか、8 月 1 日から 19 日までビアガーデンならぬハイボールガーデンも行われました。また、北海道内各地の特産品の販売や観光 P R イベントが行われるなどしており、多くの人々でにぎわっています。

また、創成川公園が平成 23 年 4 月 1 日にオープンしました。公園整備は道路整備と併せて行われたもので、一足先に地下部分の創成トンネル（アンダーパス）が平成 21 年 3 月 24 日に開通し、北 3 条～南 5 条間が一気に通り抜けられるようになっていましたが、平成 22 年度までに行われた地上部の道路整備により、都心部の混雑が緩和し安全性が確保されました。

創成川公園は、8 車線（片側 4 車線）あった創成川通のうち 4 車線がアンダーパスになったことで生まれた地上部の空間を活用して整備されました。公園の真ん中には江戸時代に作られ札幌開拓のための運河として利用された創成川が流れ、周りには様々な樹々や花が植えられ、明治時代に架けられ創成川の語源となったといわれる創成橋を中心とする開拓の広場には、歴史を感じさせる様々なものが配置されています。また、団塚栄喜・西野康造・安田侃の芸術作品計 18 作品が各所に点在するなど、水と緑と歴史と芸術を感じることでできる都心のオアシスのような空間となるとともに、狸小路と二条市場の間にある狸二条広場では夏にビアガーデンが開催されるなど、新たなにぎわいが生まれています。

さらに、広い創成川通が横断しやすくなったことで、東西の行き来がしやすくなりました。二条市場などのある最近人気の創成川東エリアと大通・狸小路・すすきのを気軽に行き来することができるようになり、札幌駅前通地下歩行空間の開通と併せて、都心全体のまちなめぐりがますます気軽に楽しめるようになりました。

## OMICE 推進事業について

従来の「コンベンション」（国際会議）に加え、企業の会議、報奨旅行、イベント・展示会などを総称した新しい枠組み「MICE（マイス＝Meeting、Incentive travel、Convention、Event/Exhibition の頭文字）」という概念が国内外で提唱されています。その経済効果や安定した通年需要、世界へ向けた P R 効果の高さなどから、世界各国・都市は、積極的に MICE 振興を行っています。日本でも観光庁が平成 22 年（2010 年）を「Japan MICE Year」と定め、本格的な取り組みを開始しました。そのような状況の下、札幌市では戦略的に MICE 事業に取り組むため、公益財団法人札幌国際プラザ

や地元のMICE関係者と議論を重ね、平成22年(2010年)11月に「札幌MICE戦略」を策定いたしました。

「札幌MICE総合戦略」では、景気変動に左右されやすい集客構造をより安定的なものとするMICEを観光と両輪をなす重要な施策として位置付け、集客閑散期に観光客受入数を増加させる効果的な誘致や札幌MICEの特徴である「官民共同でのおもてなし」を活用した受入基盤の整備や開催支援を推奨し、中国市場へのマーケティング強化、姉妹都市である韓国大田広域市のコンベンションビューローとの共同によるMICE推進など、具体的な施策が提示されています。

MICEは経済効果のみならず、学会や文化イベント等の開催により学術・文化・芸術といった幅広い側面から市民の創造性を刺激することから、創造都市づくりの基盤であり、またシティプロモートを構成する重要な要素と考えられます。札幌市は、昭和25年(1950年)に始まった「さっぽろ雪まつり」を集客力の高いイベントに育て上げ、昭和47年(1972年)に冬季オリンピックを開催して国際的な地名度を飛躍的に向上させるなど、早くから大規模会議や国際大会の誘致・受入に取り組んでまいりました。このような経験やノウハウを活かしつつ、今後は「MICE都市札幌」という独自の地位の確立を目指し、戦略的・創造的なMICEの推進に取り組んでいきます。

#### ○藻岩山リニューアルオープン(平成23年12月を予定)

札幌を一望できる藻岩山は都心からも近く、昼夜を問わないその眺望の美しさで多くの観光客や市民に親しまれており、天然記念物に指定されているほどの豊かな自然にも恵まれています。

しかし、ロープウェイ、展望台などといった藻岩山における各施設は、建設から40年近くが経過し老朽化が顕著となっていたため、これまで、有識者、公募市民などから構成される懇談会、シンポジウム、フォーラム等を通じ、藻岩山の今後のあり方、ランドデザインや魅力アップの方向性などについて検討を行いました。それらを基に平成19年度に策定した「藻岩山魅力アップ構想」は、今後の藻岩山のあるべき姿・方向性ととともに、藻岩山で想定される施設の改修や求められる機能などを示しています。

この構想に基づき平成22年度から藻岩山の再整備を進めていますが、藻岩山は豊かな自然を有しており、この恵まれた資源を市民や観光客、子どもから高齢者に至るまで誰もが感じられるように行うもので、環境の保全とバリアフリーを2つの大きなテーマとしています。山麓から山頂に行くためには急な坂道や階段を経なければなりませんでした。ロープウェイ山麓駅舎前の車寄せや、ロープウェイ中腹駅から山頂展望台に至るミニケーブルカーの新設などにより解消しますし、市電「ロープウェイ入口」電停のそばとロープウェイ山麓駅を結ぶシャトルバスも運行されます。また、環境配慮の観点から山頂への車両の乗り入れはできないこととし、ロープウェイ中腹駅前に駐車場を新設し、山頂展望台までは、ミニケーブルカーに乗るか、新たに整備される自然学習歩道を歩いて登ることとなります。(冬は雪上車も運行します。)

さらに、ロープウェイ中腹駅には札幌・北海道のお土産などが購入できる売店、山頂展望台にはレストランやプラネタリウム、札幌を紹介する3D映像を見られるスペースなどが作られる予定です。

現在、ロープウェイ、展望台、観光道路は閉鎖していますが(登山道は現在も利用可能です)、平成23年12月にリニューアルオープンする予定です。(観光道路は、冬期間はスキー場として利用されるため、平成24年4月にオープンする予定です。)